

し わ ちよ う 紫波町役場 新庁舎整備PFI事業

施工地／岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3-1
竣工年月／平成27年3月
構造／木造一部鉄筋コンクリート造3階建
敷地面積／6,602.77m²
延床面積／6,650.43m²

- ・4,444.88m²(木造棟)
- ・2,205.55m²(鉄筋コンクリート造棟)

PFI事業会社／紫波シティホール株式会社

代表企業	橋建設(株)
建設企業(建築)	橋建設(株)
建設企業(建築)	佐々木建設(株)
建設企業(建築)	(株)十文字組
建設企業(建築)	紫波建設(株)
建設企業(電気設備)	(株)興和電設
建設企業(機械設備)	(株)富岡鉄工所
維持管理・運営企業	(株)寿広
設計・監理企業	(株)久慈設計

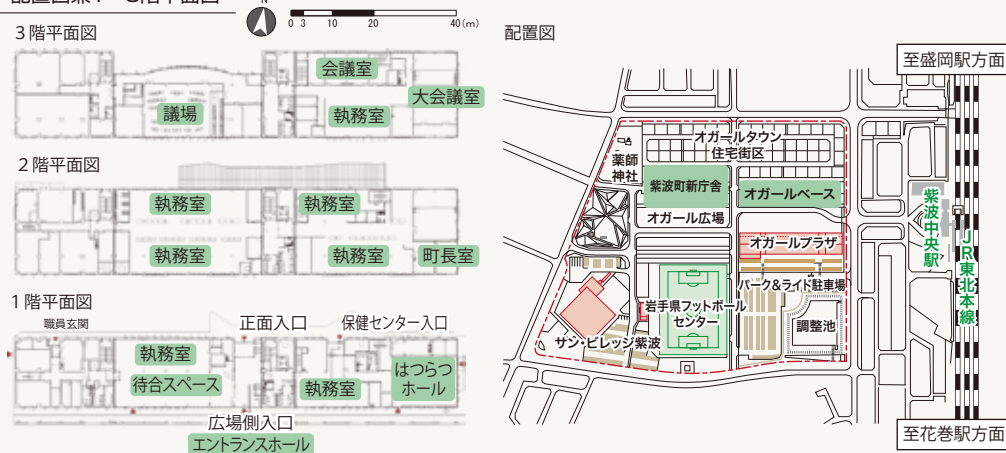


国内最大級の木造庁舎

岩手県紫波郡紫波町に完成しました紫波町役場新庁舎は、JR紫波中央駅前が開発が進む「オガールエリア」に位置し、公民連携による新たな都市像の創出「オガールプロジェクト(紫波中央駅前都市整備事業)」の一端を担う施設として整備されました。

周辺施設との統一感を持たせた本庁舎は、木造と鉄筋コンクリート造の棟を連続して配置し、別棟解釈により面積制限を緩和した木造3階建の国内最大級(木造延床面積4,444.88m²)の行政庁舎です。木造部分の構造躯体には紫波町産のカラマツ材を活用し、1時間準耐火構造の燃えしろ設計により構造躯体をあらわし、内装のフローリングや腰板のほか外装の羽目板など内外装に町産木材を活用し木質化に努めました。「木質資源循環のまちづくり」を具現化する庁舎として、町のシンボリックな役割を担いながら、周辺施設との調和と機能的な連携を図り、賑わいある魅力あふれる街づくりに貢献いたします。

配置図兼1～3階平面図



利便性と機能性の追求

新庁舎は来庁者の利便性の向上に加えて機能的な執務環境の構築を目指し計画しました。正面玄関の至近位置には庇のかかる車椅子利用者専用駐車場を設け、敷地内から内部においては段差のない動線を確認し、来庁されるすべての方をやさしくお迎えします。庁舎の顔となる1階窓口部門は紫波町らしさを表現するよう空間の木質化を図り、課の配置が一望できる見通しの良いワンフロア型を採用、座りながら手続きが行えるローカウンターを中心に業務ごとに色分けを行い、来庁者に分かり易い空間構成といたしました。執務スペースも同様にオープンプラザとして明るい執務環境としながら、将来の庁舎内機構の変化に伴うレイアウト変更などに柔軟に対応できるよう、2方向方杖付きラーメン架構とし施設の機能的なフレキシビリティも確保いたしました。



鏡面仕上フローリングの明るい待合スペース



床暖房設備により快適な「はつらつホール」



要所に木材を使用する明るい町長室

環境のまちにふさわしい庁舎

「環境を保全・創造するまちづくり」にふさわしい庁舎造りとして自然エネルギーの積極的な活用を行いました。庁舎屋上には20kw出力の太陽光発電パネルを設置し、発電による電気は庁舎内の照明設備等に利用、屋根に降った雨水はトイレの洗浄水として利用します。地域の熱源であるエネルギーステーション(木質バイオマスエネルギーによる熱源供給事業者)からは冷温水の供給を受け、庁舎の冷暖房設備の熱源として活用するなど環境共生型の庁舎整備を行いました。



木立をイメージする大断面集成材の柱



岩手県建築士会主催の構造見学会にて



天井に町章を模した斜め格子梁の議場



96人を収容する大会議室